

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
83	犬蔵小	松岡 広記

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
思いやりのある子 明るく仲良しの子 進んで学ぶ子 がんばる子 を育てる	○人権尊重教育の徹底と心の教育の充実 ○基礎・基本の定着と個に応じた指導 ○特色ある学校・教育活動の推進 ○保護者・地域・幼保小・中学校との連携 ○危機管理への対応、教職員の資質の向上	① 学びを表現できる 楽しい(わかる)授業 ○指導方法や指導体制の工夫、授業改善 ② 主体性を育む特色ある学校づくり ○子どもの権利条例の趣旨の尊重 ○子どもの豊かな人間性の育成を図る ③ 個を大切に児童支援・特別支援 ○支援教育Coを中心とした児童理解と課題解決 ○個別級を中心とした特別支援教育の充実 ④ 安心安全に過ごせる学校危機管理・情報発信 ○学校危機管理への対応 ○開かれた学校に向けた情報発信

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策		
1 学びを表現できる たのしい(わかる)授業	○問題解決的な学習過程を取り入れた学習による、思考力、判断力、表現力の育成	●ねらいを明確にし、意欲的に取り組むことのできる学習活動の工夫を図る。	・教科部会等で全体計画を立て、学習内容や活動の系統性を明らかにした「犬蔵プラン」を作成した。学年ごとのねらいを整理したので、ねらいに基づき学習の計画を作っている。	学年や教科部会を中心に、ねらいに迫る効果的な活動の検討をこれからも進める。	
	○共同研究の推進	●TTによる指導や学年内での交換授業を取り入れたきめ細かい指導に取り組む。	・1,2年でTT、中高学年で専科、交換授業を取り入れ指導内方法の充実を図った。年度途中、人的配置に課題が残った。	・効果的な交換(専科的)授業のあり方。	
		●研究の視点を明確にし、育てる力の共有を図る。	・研究テーマを「みんなが考えたい問ができたらおもしろい」とし、算数を軸として「なぜ」を大切に授業を作ってきた。 ・今年度も各授業研に講師をお招きし、授業者や学年のねらいについて全員で協議し、指導講評をいただくことができた。	・一人一人が「わかった」を実感できる問題解決的な学習をさらに進める。	
	○GIGAスクール構想の推進	●児童がそれぞれの考えをもち、伝え合い、認めあうことで学習のねらいを達成していくような授業を作る。	●学年の系統に合わせた効果的な活用について探る	・「問い」については教師も児童も上手に共有できるようになった。今日の課題を解くためには何が疑問になるのかを共有できることは、「わかる」に迫る大きな一歩だと考える。	・一人一人の「わかる」をどう表現につなげていくことができるか。
主体性を育	○人権尊重・道徳教育や情操教育等の充実	●すべての教育活動を通して人権尊重教育を進め、自他共に大切に人権感覚を育てる。 ・かわさき共生*共育プログラムの実施	・調べ、まとめるや話し合いにおけるツールなど、表現する手段としての活用が進んできている。スライド、ジャムボード、meetなどを使いこなしている学習活動が目立ってきた。	・学習履歴を生かす利用についてはまだ未開のところがある。	
			●かわさき共生*共育プログラムの実施	・かわさき共生*共育プログラムを実施するとともに、活動ごとに振り返りを行い、自分と他者を意識した取り組みを進めた。人数の多い中、教師も児童も「かわる」をたいせつにした活動計画を建てることができていた。	・活動の中で価値付をきちんと行い、指導と評価の一体化をさらに進めていく。

2	目 む 特 色 あ る 学 校 づ く り	○児童の主体的な活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●将来の社会的自立に必要な能力や態度を育てるために、キャリア在り方生き方教育の充実に努める。 ●委員会活動や実行委員会など、児童の活動の振り返りが次の活動に生かされるようPDCAのサイクルを意識した活動計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、活動を通して自己実現を図れるよう、一人一人が計画し振り返りで成果を確かめられるよう工夫をした。 ・高学年は学校のリーダーとしての意識を常に持っていた。また、他の学年も下の学年を意識して、活動をし、振り返りを行っていた。 ・関わりやつながりを意識して活動の計画を行っていた。各活動のベースになっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の中で価値付をきちんと行い、指導と評価の一体化をさらに進めていく。 ・「思い」を表現できる環境と実現できる場を準備することが教育活動の中でどこまでできるか、学年の年間活動計画の中で検討を進める。
---	---	---------------	---	--	---

3	個 を 大 切 に し た 児 童 支 援 ・ 特 別 支 援	○教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・保護者からの相談に適切に対応し、可能な支援を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も児童指導部会やケース会議など組織で対応する仕組みがしっかりと機能していた。担任がみとった課題や児童本人、保護者からの課題など、早い段階で支援教育Coがかわり、組織的に解決を探る手立てが取れてきた。 ・チームで子どもを育てる環境が整っているが、Coに頼りすぎず、ともに育てる力を一人一人につけていく。 ・COへの相談件数は増えてきている。外部機関との連携も多く、Coへの荷重がかりすぎている現状。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期の組織的な対応を今後も維持できる校内の環境を維持していく。 ・各教室で一人一人がきちんと所属感を持って生活できる環境づくりができるよう、研修等の環境を整える。
			<ul style="list-style-type: none"> ●保護者と連携して児童理解に努め、問題行動の早期発見・いじめや不登校の防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮を考えた指導の工夫を心掛けてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートノートなど個のみとりの充実を図っていく。
4	安 心 安 全 に 過 こ せ る 学 校 危 機 管 理 ・ 情 報 発 信	○個々の自立をめざす特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●個に適した学習環境・支援方法を考えた特別支援教育を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援級での授業研究を計画し、実施した。特別支援が支援級の中だけでなく、全校の中で取り組まれる意識づけができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室にいる一人一人を丁寧にみとる学級経営の在り方をさらに研修していく。
			<ul style="list-style-type: none"> ●学習面・行動面・情緒面で教育的支援の必要な児童に対し、より適切な支援ができるよう研究・研鑽に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報提供には一定の評価をいただいた。今年度も学校運営協議会では児童の表現力の向上に評価をいただいた。児童の主体的な活動があつての表現力の向上なのでこれからも活動の工夫に心がけていく。保護者からは個人面談の時期と回数について意見をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観以外の活動の参観機会を増やしていく。 ・前期前半に個人面談を設定し、学年スタート時の情報共有を保護者と図れるようにする。
4	安 心 安 全 に 過 こ せ る 学 校 危 機 管 理 ・ 情 報 発 信	○保護者・地域、幼保小・中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●PTA・学校関係者評価委員会との連携を図り、要望や改善等の意見に謙虚に対応するとともに、情報の開示と説明に努力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の継続した課題である登下校時の交通安全については、PTAや地域自治会、関係団体と連携を共有することができた。児童見守りのご協力もいただくことができています。継続した取り組みの方策を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校における安全指導の徹底。 ・PTAや地域との連携をした見守り活動の充実を図るために積極的な情報発信を心掛ける。
			<ul style="list-style-type: none"> ●PTA・地域・関係機関等と連携した防犯、交通安全対策を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した防災、防犯訓練を実施することができた。震災時に備える特別授業を4年、6年で実施し、簡易トイレの使い方など、実際に備えた学習も進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の災害を意識した、防災教育の指導を進める。 ・「川崎市立学校防災対策指針」を理解を進め、「犬蔵小学校防災マニュアル」の改定を行い、マニュアルの精度を上げていく。
			<ul style="list-style-type: none"> ●防犯防災対策・安全点検の実施や改善に努め、より一層の安全対策をPTA・地域・関係機関等と連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室と家庭をGIGA端末でつなぐことで、児童の健康状態や学習の状況のみとりに役立てることができた。十分な学習効果が得られているのか、丁寧に検証したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全と個人情報を守りながら、学習を途切らせないために、どんな方策がふさわしいかについて、情報を収集しつつ、実践を重ねていく。
			<ul style="list-style-type: none"> ●児童の様々な登校状況に合わせた学習環境を整える。 		

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けて
<p>「学校教育推進会議」から「学校運営協議会」へと移行した年であったが、学校の基本方針の承認を通じて目標やビジョンの共有が図れた。特に、児童支援・特別支援においては地域の関心も高く、安心できる居場所づくり(わくわくプラザ・寺子屋・犬蔵文庫・こども食堂の検討等)を更に進めていきたい。その、一方で学校における支援体制への協力には、専門性が求められるが故の難しさがある。危機管理の面では、予告なし避難訓練を参観した。1000人を超える児童・教職員の動きや備蓄品等も含め、実際の災害を想定した準備が進められていた。年間を通して、児童同士がつながり明るい姿が見られるとともに、創造力豊かな児童が育っていた。</p>	<p>児童は積極的に自分たちの学校生活の創造を考えて活動している。これは各学年が児童の主体的な活動を意識した学習計画を進めているからと考える。様々な仕掛けと、振り返りによる意識づけが、子どもたちに自己肯定感をつけているものと思う。学校経営方針を教員一人一人が理解し学習指導、児童指導ができた。児童支援については、昨年度から校内での二次支援の在り方が課題になっている。学習室等を用意して別室の対応をすることで、おおむね、1年以内に状況の改善が図られている。高い効果が見られているが、その運営に係る十分な指導体制をとることが難しい。これからも個に対応した支援内容の充実とともに考えていく必要がある。</p>